

## Person of the Month

誰もが、様々な場所で経験した3.11。毎回色々な「この人！」をクローズアップし、3.11後の生き方を紹介します。

去る三月十日〜十一日の二日間、チカホで開催されたイベント「5年目の3・11」。ベターデイズプロジェクトもブース出展させて戴きましたが、今回はその主催団体のひとつである北海道NPO被災者支援ネットの金栄知子（かなえとも）さんにお話を伺いました。

### 支援に関わる仕事をしたい

同NPOは2011年三月の震災直後に、「震災後、動きが活発化するであろう様々な支援団体をサポートすることを目的として発足。求職中だった金栄さんは、スタッフ募集の情報を知って夏から参加することになります。「募金以外に自分ができることは何かないか」と考えていたので、仕事として震災に関わることができると求人情報を見つけた時は、これだ！と思いました」。同NPOでは札幌市の支援事業を受託し、その一環として（札幌市内を中心に）、NPOをはじめとする支援団体との情報交換を開始します。そして昨年三月、チカホにて「4年目の3・11」を開催。同NPOが声をかけた様々な支援団体が集まり、東日本大震災を風化させないために、様々な活動を伝えるイベントを行いました。

そんな中、金栄さんとベターデイズプロジェクトとの、偶然とも必然とも言える面白い出逢いがありました。昨年九月、林田健司さんをゲストに迎えてライブ&セミナー第三タームvol.4を開催していた日のこと。金栄さんは友人とともに、美味しいコーヒードーム飲みながらお話ししようと、ばんけいベルクヒュッテを訪れます。貸切だったため一旦は別のお店にしようかと会場を後にしたのですが、どうも震災関連のイベントらしいと気づき、そのまま観客として参加されたのでした。この出逢いが今年開催された「5年目の3・11」につながります。

### 支援活動を支援する立場、一歩前へ

金栄さんはなぜ支援活動に関わったのか。その発端は自身の阪神淡路大震災への無関心さにあったようです。「当時、自分にできる範囲で寄付をしました。でもその後の復興の過程を積極的に見聞きすることはありませんでした。寄付という行為で自分の関わりは完結してしまっていたんです。それでは東日本大震災については？」津波だけでも甚大な被害が出るのに、津波と原子力災害が重なった大変な災害です。今度は、その後の経過に関心を持ち続け、わずかでも自分にできることは続けていきたいと思いました。



こうした思いで行動した結果、知り合う人、話す相手、出向く場所は大きく変化したそうです。そして考える機会が増えた、とも。「様々な人達が各々の思いやポリシーを持って活動されています。価値観の相違から一緒に活動できない方もおられるでしょうし、行政・民間・一般市民といった異なる立場においては、考え方の違いもあります。でも、根っここの思いは一緒なんです。自分にできること、今後手をつけていきたいことは、こうした現状を一歩前へ進めるためのつなぎ役です」。

### 様々な支援活動が、実りあるものになるように

「具体的には、伝え方の工夫です。同じことを訴えていても、表現方法によって言葉の印象は大きく違います。原発の是非を例に挙げれば、No! ダメ! という否定的な言葉と、再生可能エネルギーを活用して原発依存を減らしていくという肯定的な言葉とでは印象が異なりますよね。もちろん毅然とした否定も必要だと思います。でも否定的な言葉を並べることで、その団体の主



取材 / Indy 横山 撮影 / 小森学

張が理解されなかつたり、攻撃的な印象として受け取られてしまうのは、とてももったいないことだと思っんです。金栄さんは続けます。「同じ考え方、同じ価値観の人達だけで行動することは、時に危うさも感じます。自己満足で終わってしまったら、違う価値観の人や団体を受け入れなかつたり...『意識が高い』という表現にも疑問を持っています。被災された方々への支援とエネルギー問題は、私たち一人ひとりの問題とも重なることを知るきっかけがあるかどうかで、意識の高さ云々ではないと思っんです。一生懸命活動されている団体の思いや主旨は、もっと多くの方々に理解されるべきだと考えています」。

### FM ラジオでお馴染みのDJ タック・ハーシーさんが語る「音楽のチカラ」

## Better Music for Better Days



傷ついたり道を歩いていく。「重くはないのかい？」と聞かれたら、僕はこう答える。

「重くなんかないよ。だって彼は僕の兄弟だもの。」

様々なシンガーによってカバーされている「He Ain't Heavy, He's My Brother (兄弟の誓い)」は、そんな光景を描いた曲だ。最初に歌ったのはケリー・ゴードン。1969年にリリースされた彼のバージョンは残念ながらヒットには至らなかったが、その直後にホリーズがカバーし、全米・全英の両チャートでトップ10に入るヒットになる。

その後もニール・ダイアモンド、ダニー・ハサウェイ、シエルなど、さまざまなシンガーがそれぞれの歌声で折りを込めるようにして歌い、その時代の困難に立ち向かう人たちに大きな勇気と力を与え、聴き継がれ、歌い継がれてきた曲だ。

2012年には、ホリーズのメンバーやポール・マッカートニー、ロビー・ウイリアムス、メロニー・Cなど、数多くの著名なミュージシャンたちが集まり、声を合わせてこの曲を歌い、ジャ

スティス・コレクティブというユニット名でリリースしている。1989年にイギリスのシエフィールド・スタジアムでのサッカーの試合で100人近い人が亡くなり、700人以上の人が重軽傷を負った群衆事故「ヒルズボロの悲劇」。それから20年以上経って、実は事故の原因はフリーガンの身勝手な行動ではなく、当局の警備体制の不備にあり、警察も捜査資料を改ざんしていたことが明らかになったことへの抗議と、事故の犠牲者に寄り添うチャリティとして歌ったのだ。

「友を背負い、一歩一歩進む長く険しい道。それがどんなに辛く険しいものであっても、僕は決してくじけはしない。彼は重くなんかない。だって彼は僕の兄弟だから。」

悲嘆にくれ、困難の中に暮らすことを強いられている人には無制限の愛情を注ぎ、権力を持つ側の不正や納得がいかないことに対しては、断固とした態度で臨む勇気を与える曲として、新たな命を吹き込まれた「兄弟の誓い」。それはまるで、3.11以降のこの国に暮らす私たちへの応援歌のように聴こえる。

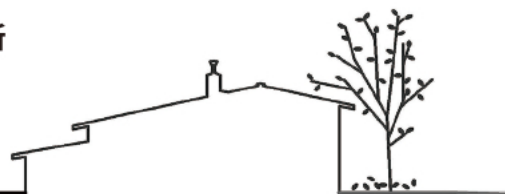


「He Ain't Heavy, He's My Brother」 by The Justice Collective

(株)フーム空間計画工房 一級建築士事務所

hu:mu

〒064-0944 札幌市中央区円山西町10丁目4-17  
TEL. 011-613-5702 FAX. 011-613-5705



http://humu.jp  
humu@humu.jp